

2021年3月24日

変わらない香港の重要性～3年間の駐在を振り返って～

香港事務所長 山奇 智幸

1. 激動の香港

2018年3月に香港へ赴任して一番驚いたことは、中国本土からの観光客の多さであった。年間5千万人を超える中国人観光客は、免税店やショッピングモールで貴金属や高級ブランドなどを購入し、香港ディズニーランドなどを訪れ、香港の街は活況を呈していた(写真1)。また、中国政府が推進する「広東・香港・マカオ大湾区構想」により、広州・深圳・香港を1時間以内で結ぶ広深港高速鉄道や、香港と珠海市及びマカオを結ぶ港珠澳大橋が開通したことで、大湾区内のアクセスが飛躍的に向上し、巨大な経済圏が動き出そうとしている。しかし、2019年3月に、中国本土への逃亡犯罪人引渡しが可能となる「逃亡犯罪人条例」改正案を香港政府が立法会に提出したところ、民主派だけでなく、親政府派や財界も含む香港社会全体に懸念・不安が拡大し、大規模デモや激しい抗議活動が続いた。その結果、中国本土からの観光客が激減し、百貨店や飲食店の売上が大幅に減少するなど、経済活動に大きな影響が及んだ。さらに、2020年1月のコロナ禍以降は、中国本土を含む海外からの観光客が途絶えたことで、香港経済は深刻な打撃を受けた。また6月には、香港での反政府活動を取り締まる「国家安全維持法」が成立するなど、この数年は香港にとってまさに激動の時期であった。



(写真1) 免税店前に並ぶ中国大陸からの観光客(2018年11月筆者撮影)

2. 3年間の駐在を振り返って

コロナ禍以前は、香港と福岡の間には毎日5便の直行便が就航しており、福岡も多くの香港人観光客で賑わっていた。コロナ禍以降は訪日旅行ができなくなったが、香港にはあまおうや八女茶などの福岡県産の食材が継続して数多く輸出されている。このため、当事務所では、日本への旅行再開を待ち望む香港人に向けて、現地飲食店やショッピングモールと連携して、福岡の食材を楽しみながら、福岡の観光やグルメスポットなどを紹介するイベントを積極的に開催してきた(写真2)。



(写真2) あまおうと八女抹茶を使ったティーセット(2021年2月筆者撮影)

また、福岡県では、2018年から2年連続で福岡県アジアビジネス訪問団を派遣し、県内企業と深圳企業のビジネスマッチングを実施したほか（写真3）、広州市内で開催された観光イベントに出展したりするなど、コロナ禍以前は、華南地域における取り組みも積極的に推進してきた。2019年12月には、深圳航空が深圳～福岡便（写真4）、厦門航空が福建省福州～福岡便の就航を発表しており（コロナ禍で就航時期未定）、今後、広州や深圳はじめ華南地域との交流もさらに活発になることを期待したい。



（写真3）福岡県アジアビジネス訪問団



（写真4）深圳航空記者発表（深圳航空提供）

3. 変わらない香港の重要性

日本のメディアの一部では「香港は死んだ」といった言葉が使用され、ネガティブなイメージが先行しているが、実際には、デモやコロナ禍においても、香港人の訪日意欲や日本の食品に対する購買意欲が衰えることはなく（写真5）、日本の農林水産省が発表した2020年の農林水産物輸出額において、香港は国・地域別で16年連続で首位を維持している。コロナ禍で、香港でもほかの国・地域と同様に経済活動に影響は出ているが、日常生活に支障はなく、今後、人の往来が再開すれば、香港は日本との経済交流がますます活発になるとともに、大湾区へのゲートウェイとして輝きを取り戻すと思われる。



（写真5）八女産巨峰（筆者撮影）

香港からのインバウンドについては、香港人観光客はリピート客が大半で、レンタカーなどで周遊する人も多いため、福岡や九州の地方都市にとっては特に重要な市場といえる。このため、今後の往来再開を見据えて、香港人観光客の受け入れ体制を整えていくことが重要であると思う。私が出会った福岡好きの香港人に福岡が好きな理由を聞くと、福岡で出会った人がとても良い人ばかりだった、といった声が多く返ってきた。私自身も、香港駐在の3年間、多くの香港人に助けていただき、特に、香港の皆さんは子供に対して非常に優しいと感じた。訪日旅行の再開を待ち望む間、香港でも日本の食品などをたくさん購入頂いている香港人の皆さんが、訪日旅行を再開された際には、是非日本で素敵な思い出を作っていただけることを願いつつ、駐在生活最後のレポートとしたい。